

## 第 19 回 長野県移動性・安全性向上検討委員会 議事録（案）

### 1. 開催概要

□開催日時：令和3年3月4日（木）15：00～17：00

□開催場所：長野県庁西庁舎 1 階 111 号会議室

□議事次第

1 開催あいさつ

2 委員紹介

3 議事

1. 長野県における交通渋滞対策について

（1）これまでの検討の経緯

（2）今回会議の論点

（3）コロナ情勢に伴う交通状況分析

（4）主要渋滞箇所マネジメントの見直し方針

（5）ピンポイント渋滞対策について

2. 長野県における交通事故対策について

（1）これまでの取り組み経緯

（2）長野県内の幹線道路交通事故対策

（3）長野県内の生活道路及び未就学児が日常的に集団で移動する経路等の  
安全対策について

3. その他

■ =説明・意見・質問・要望

➤ =回答

## 2. 質疑応答：交通渋滞対策について

### 【委員長】

- 緊急事態宣言中の交通状況（P9 について、大型車は増加傾向となっているが、高速道路についても同じ状況なのか。
- 緊急事態宣言中における主要渋滞箇所の交通状況（P10）について、約 8 割の箇所で渋滞が解消または緩和となっているが、トリップの距離や性質で増加、減少の傾向が異なると考えられるので、一概に減少したと言えるわけでは無いと考えられる。
- TDM による渋滞対策の取組み例（P12）では、高速道路への交通の転換も対策として検討できる。
- 緊急事態宣言中に交通の質の変化により速度が改善しなかった箇所（P16）について、大型車の割合が増加したと記載しているが、台数自体が減少していると考えられる。そのため、ETC2.0 を搭載している特定の車両の特性が現れた結果とも考えられる。
- 主要渋滞箇所解除検討フローの見直しにおける旅行速度での評価が適切でない箇所の取り扱い（P23）について、ETC2.0 による分析に際してはデータの精度が最も重要である。普及率が低いと、同一の自動車の、同一ルートを通るデータが複数蓄積されるため、データの偏りが生じる。分析と併せて、ETC2.0 の普及率を高めるような取組みについても検討すべきである。

### 【事務局】

- 緊急事態宣言中の交通状況については、高速道路でも交通量が増加傾向であるが、その増加幅は一般道ほどではない。高速道路に転換したのかという点を含め、今後さらに分析を進めていく。
- TDM の取組みについては、箇所選定の際に ETC2.0 を用いた検討を行うこととなるため、交通の性質や ETC2.0 の特性等を踏まえた上で、ETC2.0 の普及に努めたい。高速道路への転換等含めて検討を進めていく。

### 【CO2 バンク推進機構】

- 大塚南交差点のピンポイント渋滞対策について、利用している体験から、対策実施は適切であると考えられる。さらに、国道 18 号で交差点南側からの流入時に、混雑のため交差点内に一時停止している車両が多くみられる。そういった問題への対応策も加えていただきたい。
- TDM による渋滞対策（P12）について、テレワークや時差出勤といった取組みは、今後も継続して実施できるものなのか。このような取組みについては、現状分析なのか、こういった取組みが今後も続くとした場合の今後の展開なのかを明確にすべきではないか。
- 緊急事態宣言中の交通状況分析より、交通量の減少で渋滞が緩和することがわかるように、ハード面での渋滞対策のみではなく、ソフト面での対策の可能性についても検討を進めていくと良いと思われる。

#### 【事務局】

- 大塚南交差点の対策については、長野東バイパス車道部が今年3月開通のため、交通状況が変化する可能性もある。そのような変化も踏まえて、対策について今後検討していきたい。
- TDMの取組み内容については、道路事業者のみでは不可能な範囲であるため、今後、自治体や民間とも協力し進めたい方針である。具体の対応については、委員会のご意見や審議内容を踏まえ、検討を進めていく。

#### 【委員長】

- 主要渋滞箇所マネジメントの見直し方針については、方針案を承認する。委員会での審議内容を踏まえ、引き続き検討を進めていくこと。

### 3. 質疑応答：交通事故対策について

#### 【CO2 バンク 推進機構】

- 前回の意見に対し、とても丁寧にまとめていただきありがたい。特に審議事項と報告事項が分けて記載され、内容が分かりやすく、論点も整理されており、引き続きこのような形で資料をまとめていただきたい。
- P21 に現ハラハラ箇所の評価未完了の7箇所があるが、この場所が未完了となった背景、理由があれば教えていただきたい。ここで対策実施ができなかった背景があり、それが十分に理解できるものであれば、単に再選定する意味は無いかもしれない。

#### 【事務局】

- P21 の未完了の7箇所は1度目の対策は実施済みの箇所。この箇所は、要望により抽出された箇所であり、要望に対し確認を取らなければならないと考え、今回箇所を残した。事故件数は一部増えている箇所はあるが、4年で3件以下の箇所が多く、引き続き次回以降の審議の中で、この箇所の取扱いを相談させていただくかもしれない。今の時点では、優先度③として引き続き対策を実施させていただきたい。

#### 【CO2 バンク 推進機構】

- P21 の箇所は対策がされていないように見える。この箇所を優先度は異なるにしても同列に優先度③に追加し、対策未実施として扱う必要は本当にあるのか。要望を出された方の変化の実感を確認するような丁寧な対応をしたいとのことだが、客観的に見て危険性が脱却できているということであれば、データとして裏付けがあるということ、取扱いは変えても良いのではないか。また、要望についてすぐに確認できるのであれば確認し、完了としても良いのではないか。

#### 【委員長】

- この箇所は対策後、10年が経過している。最初の頃に簡単な対策を実施し、何もせずに来た箇所だと思う。今回はそういう箇所について丁寧に話を聞いて、問題がなければ対策箇所から外すということで良いのかもしれない。
- 現ハラハラ箇所の取扱いは事務局案にて今のところ進めることを承認する。

#### 【委員長】

- 新たな事故危険区間の要望箇所も対策実施後、丁寧に話を聞いて問題がなければ、事故危険区間から外すという手順を作っていければ良いと思う。

#### 【事務局】

- P28 の新ハラハラ箇所に現ハラハラ箇所対策未実施の4箇所を含めるということ、P21 の現ハラハラ箇所優先度③の7箇所、委員・住民指摘の7箇所を優先度③に追加するということ

を審議いただきたい。

**【委員長】**

- P25 の委員・住民指摘箇所を優先度③に追加するかどうかということだが、これは指摘箇所について道路管理者、交通管理者の方で判断し、優先度を分けたということか。指摘箇所の中で事故危険区間外とした箇所について、委員、住民の方はそれぞれそのような判断としたということを納得されているのか。

**【事務局】**

- 道路管理者と交通管理者の判断結果について、委員、住民にフィードバックはできていない。

**【委員長】**

- 危険性や優先度にふさわしいかどうかを議論した結果、優先度の区間までではないということも委員、住民へフィードバックすべきではないか。委員、住民から危険だと指摘されていることから、それなりの根拠を示した方が良いのではないか。

**【事務局】**

- P27 にそれぞれ指摘箇所について、道路管理者、交通管理者が確認した結果を記載しているが確認結果のフィードバックができていないわけではない。

**【委員長】**

- 注意喚起看板設置、照明設置等の対策を実施すると書いてある。軽微な対策で対応できる箇所はそれで良いのではないか。大きな改良をせずに簡単な対策で対応できる。このような簡単な対策実施の指摘があり、対策をすぐでき、効果が発生しているということであれば良いのではないか。それを経て箇所として外すということでは良いのではないか。そのような手順が雑。書いてあることは分かるが、それをどう表現していくかということが上手くできていない。
- 委員・住民指摘箇所について道路管理者・交通管理者の確認による判定結果をもとに事務局案にて進めることを承認する。

**【委員長】**

- P20 の現ハラハラ箇所の対策未実施の 4 箇所は、事故危険区間の基準を満たしていないが、新ハラハラ箇所に残すことを承認する。
- 事務局が提示した案を新ハラハラ箇所案として進めることを承認する。

**【CO2 バンク推進機構】**

- 優先度①には 153 箇所と箇所が多くあるが、これは全てすぐに対策を実施するのか。優先度①の中で優先順位があるのか。実行性の見通しを聞きたい。

**【事務局】**

- 対策をするためには予算が必要。今の時点で全部の箇所を対策できる予算を確保できるか不透明。優先度①は事故ゼロプラン 5 年での目標の箇所という扱い。簡単に対策できるものだけではない。予算確保、実施をしていきたいが、全部の箇所を対策できるかは明言できない。

**【CO2 バンク 推進機構】**

- 優先度①は目標として取り組むということだが、優先度②、優先度③は 5 年間で着手しないのか。

**【事務局】**

- 優先度を目安とし目標として進めていきたい。

**【CO2 バンク 推進機構】**

- ケーススタディ、経験、知見を活かしながら、対応が早くできるところ、重要などところを見極め、きちんとした対応を実施するというように、経験を生かした対応について説明があると説得力がある。

**【事務局】**

- ハード対策だけでなく、ソフト対策も含めできるところから対策実施していきたい。

**【委員長】**

- 優先度①について 5 年で対策完了をする姿勢で臨んでいただきたい。そうでなければ要対策箇所について掲載するだけになってしまう。予算の面もあると思うが工夫して対策を実施いただきたい。お金をかけずに対策できるものはすぐに実施するというように対策の手段を検討いただきたい。そうしなければ優先度②は何もしないという話になってしまう。
- 本日の意見について事務局の方で検討し、その結果については委員長に一任願、その後、個別の検討を進め、その結果を引き続き委員会にて議論する。

以上

4. 会議状況写真

